第２期高校教育改革推進計画

（案）

令和　年　月

群馬県教育委員会

はじめに

1　計画策定の趣旨

国内外を問わず様々な要因が複雑に関係し合い、急激に変化し続ける社会にあって、本県教育振興基本計画の掲げる「たくましく生きる力の育成」の基本目標の下、高校教育の諸課題と今後の在り方について検討するため、県教育委員会では、平成31年12月に有識者による委員会を設置し、令和２年３月に検討結果の報告を受けました。しかし、本検討と前後して発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体が大きく変化する中、学校は、その役割の大きさが再認識されるとともに、教育のデジタル化などの新たな取組が求められることになりました。

本計画の策定に当たっては、このような状況も踏まえ、「たくましく生きる力の育成」を、本県の高等学校においていつの時代にあっても変わらず重要なものと位置付けるとともに、新たな２つの視点を加えて、高校教育改革に取り組むこととしました。

新たな２つの視点とは、「誰一人取り残さない」というＳＤＧｓの理念の下、多様な個性を持つ子どもたち全てが安心して高校教育を受けられる体制づくりを進めていくという視点であり、また、今や人々の生活に不可欠なものとなりつつあるデジタルツールを生かして群馬ならではの学びを進める「教育イノベーション」の視点です。

以上のことを踏まえ、群馬の未来を担う人材を育成するため、「第２期高校教育改革推進計画」を策定します。

2　計画の位置付け

「第３期群馬県教育振興基本計画」（計画期間：平成31年度～令和５年度）の部門計画であり、「第２期群馬県教育大綱」（令和３年○月策定）の方向性を踏まえたもの

3　計画期間

令和４年度から令和13年度までの10年間

4　計画の推進

本計画に基づいて実施計画を策定し、計画的・段階的にその実施を図っていくものとします。

なお、本計画は、現在の社会状況や令和２年５月１日の学校基本調査結果に基づいていることから、今後、社会の変化や中学校卒業見込者数等の状況に応じて、計画の見直しを行っていきます。

目　次

はじめに

(ページ)

Ⅰ　高校教育改革の必要性 ---------- 1

Ⅱ　特色ある高校教育の推進 ---------- 4

1　時代を切り拓く力の育成

2　確かな学力の育成

3　豊かな人間性と健やかな体の育成

4　信頼される魅力的な学校づくり

5　地域との連携・協働の推進

Ⅲ　生徒受入体制の在り方

1　公立高校と私立高校との協調 ---------- 9

2　県立高校の再編整備 ---------- 10

3　小規模校の扱い ---------- 12

4　学校・学科等 ---------- 13

5　入学者選抜 ---------- 15

6　男女共学の推進 ---------- 16

Ⅳ　地区別の再編整備の方向 ---------- 17

参考資料 ---------- 33

Ⅰ　高校教育改革の必要性

■高校を取り巻く環境の変化

＜社会の変化＞

グローバル化による社会的、経済的諸課題、生産年齢人口の減少、気候変動による災害等、現代社会は、複雑かつ予測困難な課題を抱えています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会全体に「ニューノーマル（新常態）」への転換を迫ることとなり、社会や経済のデジタル化が進行し、安全で持続可能な地域社会づくりがより一層求められることとなりました。このような状況にあって、成年年齢の18歳への引下げもあり、若者一人一人が自らの責任を自覚し、社会を担うことがより一層求められており、今後は、高校教育の果たす役割がこれまで以上に大きくなっていくと考えます。

＜生徒の多様化＞

令和２年３月における本県の中学校卒業者の高等学校等※1進学率は99％であり、少子化など社会状況の変化の影響等もあって、高等学校では、以前にも増して、多様な学習ニーズを持つ生徒を受け入れています。また、近年、各学校には、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の一層の多様化に加え、不登校経験を持つ生徒や障害のある生徒※2、外国人生徒など、多様な生徒が在籍するようになっていることから、全ての高校生が安心して高校教育を受けられる体制づくりを進めていくことが必要となっています。

＜中学校卒業者の減少＞

本県の中学校卒業者は、平成元年３月の33,859人以降、急減期に入り、平成20年代の増減期を経て、平成30年から再び急減期に入っています。令和２年３月の中学校卒業者は17,846人でしたが、今後も更なる減少が続き、令和17年の中学校卒業見込者は１万３千人を下回る見込みです。このように、急激な中学校卒業者の減少が見込まれる中で、高校教育には、学校の

活力を維持し、教育の質の向上を図るための取組が求められており、地域のニーズを捉えた特色ある学校づくりを推進するとともに、適正な学校規模と教職員配置を維持し、教育環境を整備していくことが急務となっています。

＜教育のデジタル化＞

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、社会や生活様式が大きく変容し、社会のデジタル化が加速する中、文部科学省のＧＩＧＡスクール構想の前倒しと並行して、本県では独自に、全国に先駆けて県立高校への１人１台パソコンを整備し、デジタル技術を活用した学びの充実を図ります。

今後は、生徒の学習ニーズや理解度に合わせ、個別最適な学びを推進していくことに加え、多様な人々と関わりながら課題解決を図る協働的な学びの実現や、近年多発している大規模な災害等に備えて、緊急時のオンラインによる学びを保障する体制づくりを進めていくことが必要です。

■これまでの高校教育改革と今後の方向

県教育委員会ではこれまで、平成14年２月に「高校教育改革基本方針」（計画期間：平成14年度～平成23年度）、平成23年３月に「高校教育改革推進計画」（計画期間：平成24年度～令和３年度）を策定しており、「高校教育の質的充実」や「学校・学科の特性を生かした学校づくり」を進め、「学校規模の適正化」、「学校・学科等の適正な配置」及び「男女共学の推進」等を図ってきました。

今後は、これまでの本県高校教育の特色や各校の優れた取組を継承し、向上を図っていくことに加え、社会の急激な変化や生徒の多様化、中学校卒業者の減少がより一層進行している状況を踏まえた、新たな取組が求められています。群馬の子どもたちの誰もが、予測困難な時代にあっても、可能性を開花させ、自らの手で未来を切り拓くことができるよう、新たな学びの視点を取り入れた教育環境の整備を進め、特色ある高校教育を推進していくことが必要です。

※１　高等学校等：公立及び私立高校（全日制、定時制、通信制）、特別支援学校高等部、国立高等専門学校。

※２　障害のある生徒：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害、自閉症、ＬＤ（学習障害）、ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）などのほか、学習面又は行動面において困難のある生徒で発達障害の可能性のある者。

Ⅱ　特色ある高校教育の推進

■基本的な考え方

急激に変化する社会の状況や、生徒の多様化を踏まえ、「誰一人取り残さない」社会を目指すＳＤＧｓ[※3]の理念の下、全ての生徒に「たくましく生きる力[※4]の育成」を図ることを、いつの時代にも不変の目標と位置付け、取組を進めます。

また、社会が加速的に変化し、将来の予測が困難な時代にあって、既存の考え方にとらわれることなく、新しい価値を創造することのできる「時代を切り拓く力の育成」を、取組の方向の第一に掲げ、教育のデジタルトランスフォーメーション[※5]による学習環境の整備を進めるとともに、教育イノベーション[※6]を推進して、群馬ならではの学びの充実を図ります。

■取組の方向

以下のとおり、５つの方向に沿って「たくましく生きる力の育成」に取り組みます。

１　時代を切り拓く力の育成

社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して課題解決に取り組む力を育成するとともに、グローバル化やデジタル化の時代を生き抜くために必要なリテラシーを備え、新しい価値を創造できる「始動人[※7]」を育成します。

２　確かな学力の育成

生徒の適性や興味、進路希望等に合わせた多様な学びのニーズに対応しつつ、新たな時代に求められる確かな学力を育成します。

３　豊かな人間性と健やかな体の育成

自他を大切に、互いに認め合う心を持ち、生涯を通じて健康で活

力ある生活を送れるよう、心と体の両面から健康を育みます。

4　信頼される魅力的な学校づくり

新たな課題への学校の対応力を向上させるとともに、全ての生徒が安心して学べる環境の整備や、特色ある学校づくりを推進します。

5　地域との連携・協働の推進

郷土への誇りや愛着の心を育みながら、地域に根ざし、幅広い分野で活躍できる人材を育成します。

1　時代を切り拓く力の育成

(1) 探究型学習（総合的な探究の時間※8、ＳＴＥＡＭ教育等※9）を充実させ、課題が複雑化・多様化する現代において、多角的に課題を捉え、解決に向けて取り組む力を育成します。

(2) 多様な個性、多様な価値観を受容し、他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となるための豊かな発想力を育成します。

(3) 国内外の高等教育機関や研究所、企業、ＮＰＯ法人、小中学校、地元市町村等と連携し、多様な学びの機会を提供して、社会的・職業的自立に必要な力を育成します。

(4) 外国語でのディベートやディスカッション等の言語活動を充実させ、高いレベルの国際的なコミュニケーション能力の育成を図るとともに、積極的に異文化を理解し、尊重する態度を身に付けたグローバル人材の育成を図ります。

(5) 情報モラル教育やプログラミング教育等、ＩＣＴリテラシーを高める取組を、小中学校との学びのつながりを踏まえて推進し、デジタル化の進む社会にあって、自己の能力を発揮し、新しい価値を創出・発信する力の育成を目指します。

2　確かな学力の育成

(1) 学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向け、授業改善を推進します。

(2)　生徒の能力や適性、興味・関心、進路希望等を踏まえ、教科等横断

的な視点による教育課程の編成や、教育に必要な人的・物的体制の確保に努め、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図ります

(3) 授業や家庭での学習において、１人１台パソコンをより効果的に活用し、対面指導とオンライン教育のハイブリッド化※10により学びの質の向上を図ります。

(4) 学習支援用ソフトウェアを活用して、小学校から高校までの学びのデータを蓄積し、生徒一人一人の教育的ニーズや理解度に応じた学習の個別最適化を推進します。

(5) ＩＣＴの活用により、協働的な学習活動を充実させて、学びの深化を図ります。

3　豊かな人間性と健やかな体の育成

(1) 家庭や地域と連携しながら、教育活動全体で、多様性を認め自他を大切にする心や社会性を育み、規範意識を高めます。

(2) 学校行事や部活動、いじめ防止活動、ボランティア活動等、生徒主体の体験的な活動を推進して、責任感や自己有用感を高め、人権に関する意識の向上を図ります。

(3) 教育活動全体で、健康の増進や体力の向上を図るとともに、感染症等への適切な対応を含め、学校保健に関する教育の充実を図ります。

(4) 情報通信機器の発達によるコミュケーションの在り方の変化を踏まえ、情報モラルの向上と人間関係形成力の育成を図ります。

4　信頼される魅力的な学校づくり

(1) 管理職のリーダーシップの下、職員研修により教職員の指導力を高めるとともに、学校安全、学校保健の観点等も踏まえ、校内組織の見直しや外部機関との連携を推進し、学校組織マネジメントに努めます。

(2) ＩＣＴを活用した学校業務の効率化により、教職員が生徒と向き合う時間を確保し、やりがいと働きやすさを感じることのできる職場環境づくりを進めて、教職の魅力化を図り、教育への熱意と優れた資質を備えた教職員の確保に努めます。

(3) 生徒の抱える困難や課題に適切に対応するため、中学校からの指導

の連続性に配慮しながら、スクールカウンセラー配置や通級による指導、合理的配慮の提供等について、一層の充実を図ります。

(4) 社会や生徒のニーズを踏まえ、地域と一体となって特色ある学校づくりを推進し、各学校の魅力化を図ります。

(5) 高校教育の質の維持・向上を図り、本県の子供たちが本県で十分な高校教育を受けられるよう、県立高校の再編整備を含む生徒受入体制の在り方について、柔軟に見直しを進めます。

(6) 小規模校での学びの多様性の確保を始め、病気や障害により教室での授業を受けられない場合や、災害や感染症の拡大等により通学できない場合等に対応できるよう、ＩＣＴを活用し、教育環境の保障を図ります。

(7) 保護者や地域からの意見を反映し、組織的・継続的な学校運営の改善を図ります。

5　地域との連携・協働の推進

(1) 普通科、職業系専門学科の別なく全ての県立高校において、その地域ならではの伝統や文化、ものづくりの技術や観光資源等を教育資源として活用し、地域の課題解決や魅力の向上等をテーマとした学習を推進します。

(2) 地域や産業界と連携し、学校の特色を生かしながら、県外からも注目されるような地域の魅力の向上と発信に取り組み、学校を含めた地域全体の活性化と魅力化を図ります。

上記の５つの方向による取組を通して、群馬ならではの特色ある教育活動を推進し、県内はもとより、県外からも信頼を寄せられる学校づくりを目指します。新しい時代の担い手である子どもたちが生き生きと学ぶ、全国に誇れる魅力ある高校教育の実現に向けて、取組の充実を図ります。

※３　ＳＤＧｓ：Sustainable Development Goalsの略。2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標。本県では令和元年に「ぐんまＳＤＧｓイニシアティブ」を

作成。性別や年齢、障害の有無や国籍などを問わず、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる持続可能な地域社会の実現を目指して取組を推進。

※４　たくましく生きる力：本県の教育分野の最上位計画「第３期群馬県教育振興基本計画(H31～R5)」の基本目標「たくましく生きる力を育む～自らの可能性を高め、互いに認め合い、共に支え合う～」による。

※５　教育のデジタルトランスフォーメーション：個別最適な学びや協働的な学び、外部との連携、学びの保障を推進するための、ＩＣＴを活用した学習環境の整備。本県「新・総合計画」による。

※６　教育イノベーション：教育現場へのＩＣＴ環境を整備し、デジタルを活用した新しい教育と群馬の環境を生かした教育を推進し、群馬ならではの学びの充実を図ること。本県「新・総合計画」による。

※７　始動人：急激に変化する社会にあって、自分の頭で未来を考え、他人が目指さない領域で動き出し、新しい価値を創造しながら生き抜く力を持った人材。本県「新・総合計画」による。

※８　総合的な探究の時間：横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目標とする、学習指導要領（平成30年３月告示）に設けられた学習活動。

※９　STEAM教育：各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育。Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics等に渡る幅広い分野で新しい価値を提供できる人材養成を目的とする。（中央教育審議会　中間まとめ「令和の日本型学校教育の構築を目指して」より）

※10　対面指導とオンライン教育のハイブリッド化：教員が対面による指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とをつかいこなすこと。（中央教育審議会　中間まとめ「令和の日本型学校教育の構築を目指して」より）

Ⅲ　生徒受入体制の在り方

1　公立高校と私立高校との協調

■基本的な考え方

今後の本県の高校教育にあっては、中学校卒業見込者の長期にわたる大規模な減少が見込まれる状況において、不登校経験を持つ生徒や障害のある生徒、外国人生徒等、多様化する生徒の受入れや、山間部に居住する生徒の学びの場の確保について、新たな対応が求められています。

これらを踏まえ、本県の子供たちが本県で十分な高校教育を受けられるよう、私立高校と協調して、生徒受入体制を整備していきます。

■取組の方向

(1) 公立と私立による現状の生徒受入体制を基本とします。

(2) 社会の変化や生徒の学習ニーズの多様化等を適切に踏まえて、柔軟に対応します。

〔資料〕全日制高校等受入定員及び中学校卒業者数に対する割合の推移

年　　度	平成２６年度	平成２８年度	平成３０年度	令和２年度
中学校卒業者数	19,654	19,309	18,806	17,846
県　　立	12,440(63.3%)	12,200(63.2%)	11,800(62.7%)	11,120(62.3%)
市立・組合立	1,280(6.5%)	1,305(6.8%)	1,315(7.0%)	1,315(7.4%)
私　　立	4,525(23.0%)	4,525(23.4%)	4,455(23.7%)	4,455(25.0%)

(注)・中学校卒業者数は、中等教育学校前期課程修了者を含む

・県立、市立・組合立には、フレックススクール昼間部定時制及び中等教育学校後期課程を含む

・100%に満たない部分は、定時制、通信制、特別支援学校高等部、県外進学、専門学校、就職 等

2　県立高校の再編整備

■基本的な考え方

令和２年度から令和13年度にかけて、中学校卒業者は３千人以上減少し、全県の公立高校の学級数については、50学級以上を減じることになる見込みです。これは、現在の平均的な規模である１学年当たり５学級の学校で、10校以上の減となります。このような少子化を始め、学校を取り巻く環境が急激に変化している状況を踏まえ、高校教育の質的水準の維持・向上を図る観点から、県立高校の再編整備を計画的に行います。

再編整備に当たっては、中学生や社会のニーズを踏まえるとともに、地域ならではの特色を生かした活動や、ＩＣＴを活用した新たな取組やその発信など、教育イノベーションの視点を踏まえて、地域と一体となった魅力ある学校づくりを進めます。

■取組の方向

(1) 適正規模

ア　１学級当たりの人数は、国の基準に基づき、40人を標準とします。

イ　学習の専門性の確保※11に加え、多様な部活動の保障や学校行事等の活力維持の観点から、１学年当たり４～８学級を基本とします。

ウ　適正規模を下回る学校については、地域の実情を踏まえながら、統合等による学校規模の適正化を図ります。

(2) 適正配置

ア　学校・学科等の適正な配置に当たっては、生徒の通学状況等を踏まえ、原則として、県内を次の８地区に分けて検討します。

○　前橋地区　　○　伊勢崎・佐波地区

○　高崎・安中地区　　○　藤岡・多野・富岡・甘楽地区

○　沼田・利根地区　　○　渋川・吾妻地区

○　太田・館林・邑楽地区　　○　桐生・みどり地区

イ　地域の実情に応じては、地区内を分けたり、複数地区を広域的にまとめたりしながら検討します。

ウ　各地区に、普通科系学科を基盤とする、一定規模の中核となる学校を維持します。なお、複数の中核校の維持が難しい地区については、統合を検討します。

エ　職業系専門学科については、学科の専門性を維持、向上させる観点から、全県を視野に、それぞれの学科の拠点校を整備します。

オ　学科別定員については、普通科系学科６割、職業系専門学科３割、総合学科１割という現在の比率を目安に、生徒や社会のニーズ、産業界や地域の実情等を踏まえて、学級数を調整します。

カ　定時制課程・通信制課程については、全県の配置バランスに配慮するとともに、多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

※11　学習の専門性の確保：理科の各分野（物理・化学・生物・地学）や、地理歴史・公民の各分野（地理、日本史、世界史、公民）など、専門の教員がそれぞれの専門分野の指導をすること。学校の小規模化により教員数が減少する場合は、専門の教員をそろえることが困難となる。

〔資料〕地区別中学校卒業者数の推移

地区＼卒業年月	令和2年3月	公立高校数（公立中等教育学校数）	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月
前橋地区	2,927	10	2,900	2,774	2,571
伊勢崎・佐波地区	2,394	6 (1)	2,271	2,223	2,085
高崎・安中地区	4,047	11 (1)	3,970	3,571	3,304
藤岡・多野・富岡・甘楽地区	1,159	7	1,159	1,048	855
沼田・利根地区	718	5	641	553	484
渋川・吾妻地区	1,446	7	1,304	1,265	1,152
太田・館林・邑楽地区	3,770	13	3,698	3,738	3,221
桐生・みどり地区	1,385	7	1,275	1,135	1,000
県全体	17,846	66	17,218	16,307	14,672

（注）・中学校卒業者数は、中等教育学校前期課程修了者を含む
・学校基本調査及び義務教育就学前幼児数調査による（令和２年５月１日現在）

3　小規模校の扱い

■基本的な考え方

１学年２学級規模の小規模校については、地域との情報共有を図りながら、今後の在り方を検討します。

なお、生徒の入学者数が定員を下回り、将来にわたり減少が予測される場合には、充足率や地元からの入学者数等を示した目安となる基準を設定し、地域の実情に配慮しながら、統合等を含む再編整備を計画的に行います。

■取組の方向

(1) 各校が、地域で担ってきた役割を踏まえ、ＩＣＴを活用するなどして、高校教育の質の維持・向上を図りながら、より一層の特色化を推進します。

(2) 入学者が40人を下回る状況が３年続いた場合を目安とし、地元中学校からの入学者数等も踏まえながら、統合を含む再編整備を検討・実施します。

(3) 特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模校については、生徒の通学状況等、地域の実情を踏まえ、段階的措置として１学年１学級化も含めて再編整備を検討・実施します。

(4) 再編整備に当たっては、教育の機会均等の観点に十分配慮しながら、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどし、地元の理解を得ながら検討を進めます。

4　学校・学科等

■基本的な考え方

魅力ある学校づくりのために、学校・学科の特性を生かし、地域との連携やＩＣＴの効果的な活用などにより、学校の特色化を推進します。

また、中学校卒業者数の減少を踏まえ、高校教育の質的水準の維持・向上の観点から、学科の地域バランス、地域のニーズ、生徒・保護者の希望等に配慮しながら、全県を視野に、配置の見直しや新しい学科・コースの設置を進めます。学科・コースの今後の在り方については、ＩＴ人材・グローバル人材の育成や、地域の魅力を高め、広く発信できる人材の育成など、教育イノベーションによる学びの充実の観点も踏まえて検討します。

■取組の方向

(1) 全日制普通科系学科

ア　より多様化する生徒の実態を踏まえて、能力・適性、興味・関心、進路希望等、生徒の一人一人の学習ニーズに対応できる体制づくりを進めます。

イ　各地区ごとに、普通科系学科を基盤とした中核となる学校を整備し、大学進学等のニーズへの対応を図ります。

ウ　新たな価値を創造できる人材育成の観点から、学際科学的な学びや、地域と連携した探究的な学び等に重点的に取り組む、特色ある普通科系専門学科やコースの設置などについて検討するとともに、総合学科への改編、単位制の導入などについても推進を図ります。

(2) 全日制職業系専門学科

ア　地域や産業界に果たす役割の大きさを踏まえ、生徒や社会のニーズ、全県の配置バランスに配慮しながら、特色ある教育を推進するとともに、学科・コースの配置や定員の設定の改善を図ります。

イ　学びの多様性と専門性を維持するため、一定の学校規模を有する学科の中心となる拠点校（農業科、工業科、商業科等）の整備を進めます。

ウ　農業科、工業科等については、より充実した学びを実現するため、学級定員の引下げについて検討します。

(3) 全日制総合学科

ア　多様な学びの選択に加え、専門教育の内容に関しても、更に深化を図れるよう工夫します。

イ　特色化や学校活力の維持への対応として、他学科から総合学科への改編について検討します。

(4) 定時制・通信制

ア　多様な学びのニーズに対応できるよう、教育内容の充実に努めるとともに、教育の機会均等を確保できるよう、全県の配置バランスを見直します。

イ　昼間部定時制課程へのニーズを踏まえ、定員の見直しや、夜間定時制課程の授業開始時間の柔軟化等を検討します。

ウ　通信制課程については、平日の通学ニーズへの対応を進めるとともに、オンラインによる学習支援の充実を図ります。

(5) 中高一貫教育校

【連携型中高一貫教育校】

ア　連携中学校と高校間で培ってきた、地域に根ざした教育をベースに、地域との情報共有を図りながら学校の特色化を進めます。

イ　高校が１学年２学級規模の小規模校であることから、地域の学校関係者等との意見交換を密にし、今後の在り方を検討します。

【中等教育学校】

ア　６年間の一貫した学習環境を生かし、特色ある教育活動を推進します。

イ　現在の配置を基本としつつも、社会の変化や学習ニーズの多様化踏まえ、今後の配置を検討します。

5　入学者選抜

■基本的な考え方

「生徒一人一人の優れたところを積極的に評価するため、多様な選抜尺度による選抜を行う」という趣旨の下、適切な制度の在り方について、今後も不断に見直しを行います。

■取組の方向

(1) 学習指導要領により示された、資質・能力や学習評価の考え方等を踏まえ、選抜制度の改善を図ります。

(2) 受検者の能力や適性、学習到達度を公平・公正に評価できるよう、受検機会の見直しを図り、検査内容等のより適切な在り方について検討します。

(3) 通学区域については、受検者が自由に学校を選択できる全県一学区を継続します。

(4) 不登校経験を持つ生徒や障害のある生徒、外国人生徒への対応に加え、感染症への対応等についても、より適切な選抜方法を工夫します。

6　男女共学の推進

■基本的な考え方

男女が共に学ぶことの意義や、性差による制限のない学校選択の保障という観点に加え、性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒への対応の必要性などからも、男女共学化を推進していく必要があります。

「群馬県男女共同参画基本計画」を踏まえ、県民の理解を得ながら、今後の高校教育改革の中で、男女共学化を推進します。

■取組の方向

(1) 社会の変化や中学校卒業者数の減少がこれまで以上に急激に進行している状況を踏まえ、高校教育が抱える他の課題とも関連させながら、男女共学化を推進します。

(2) 社会の変化や県民のニーズ等を踏まえるとともに、地域や関係者の理解を得られるように努めます。

(3) ＳＤＧｓの理念を踏まえ、生徒が相互に尊重し、協力する態度を養えるよう、多様性を認め合う教育を、より一層推進します。

Ⅳ　地区別の再編整備の方向

1　前橋地区

■基本的な考え方

県の中央部に位置し、県内ほぼ全地区から通学している生徒がいることから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、全県を対象とした学科の拠点となる学校を整備します。

令和３年度の地区の学校数は９校、令和13年度の試算では、９～８校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科、総合学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科及び総合学科については、学科やコース、系列の見直しを図るとともに、学科の専門性を維持・向上させる観点から、農業・工業・商業の学科の拠点となる学校を整備します。

(3) 定時制課程及び通信制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(4) 市立高等学校を設置する前橋市教育委員会と連携して学級数を調整するとともに、地区の高校教育の充実を図ります。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	2,900	2,774	2,571	2,224
増減(令和3年3月比)	―	-126	-329	-676

(令和２年度学校基本調査を基に作成。以下同様)

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
			令和３年度	令和８年度	令和13年度
前　　橋	普通科	7	52学級 ９校	53～51学級 ９校	52～48学級 ９～８校
前　橋　南	普通科	5			
前　橋　西	普通科 国際科	3 1			
前 橋 女 子	普通科	7			
前　橋　東	総合学科	5			
勢 多 農 林	農業系学科	5			
前 橋 工 業	工業系学科	6			
前 橋 商 業	商業系学科	7			
前橋市立前橋	普通科	6			

【定時制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
			令和３年度	令和８年度	令和13年度
前 橋 清 陵 (ﾌﾚｯｸｽｽｸｰﾙ)	普通科昼間部 普通科夜間部	2 2	６学級 ２校	６学級 ２校	６学級 ２校
前 橋 工 業	機械科(夜間) 建築科(夜間)	1 1			

【通信制課程】

高等学校名	学科等	学校数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
前 橋 清 陵	普通科 衛生看護科	１校	１校	１校

2　伊勢崎・佐波地区

■基本的な考え方

近接する複数地区からの通学者を受け入れている一方で、地区の中学校卒業者が地区外の高校へ進学する数も多いことから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、より一層の学校の特色化を図ります。

令和３年度の地区の学校数は６校、令和13年度の試算では、６～５校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科、総合学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科及び総合学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコース、系列の見直しを図ります。

(3) 玉村高校※12については、生徒の通学状況等に応じて、学科やコースの改編を含む再編整備を検討・実施します。同時に、「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の取組の充実など、地域と連携して、学校の活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(5) 市立中等教育学校を設置する伊勢崎市教育委員会と連携して、地区の高校教育の充実を図ります。

※12　玉村高校：１学年２学級規模の小規模校。平成21年度から「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」指定校として、地域との連携によるキャリア教育等を推進。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	2,271	2,223	2,085	1,851
増減(令和3年3月比)	―	-48	-186	-420

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

<table>
<tr><th rowspan="2">高等学校名</th><th rowspan="2">学科等</th><th colspan="4">1学年学級数及び学校数</th></tr>
<tr><th colspan="2">令和3年度</th><th>令和8年度</th><th>令和13年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">伊　勢　崎</td><td>普通科</td><td>6</td><td rowspan="7">30学級
6校</td><td rowspan="7">30～28学級
6校</td><td rowspan="7">29～25学級
6～5校</td></tr>
<tr><td>ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科</td><td>1</td></tr>
<tr><td>伊勢崎清明</td><td>普通科（単位制）</td><td>5</td></tr>
<tr><td>伊勢崎興陽</td><td>総合学科</td><td>5</td></tr>
<tr><td>伊勢崎工業</td><td>工業系学科</td><td>5</td></tr>
<tr><td>伊勢崎商業</td><td>商業系学科</td><td>6</td></tr>
<tr><td>玉　　村</td><td>普通科</td><td>2</td></tr>
</table>

【定時制課程】

高等学校名	学科等	1学年学級数		
		令和3年度	令和8年度	令和13年度
伊勢崎工業	工業技術科(夜間)	1学級	1学級	1学級

【中等教育学校】

中等教育学校名	学科等	1学年学級数		
		令和3年度	令和8年度	令和13年度
伊勢崎市立 四ツ葉学園	普通科	4学級*1	4学級	4学級

*1　1学級30人

3　高崎・安中地区

■基本的な考え方

中学校卒業者数が県内で最も多く、また、隣接する他地区からの進学者も多いことから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、全県を対象とした学科の拠点となる学校を整備します。

令和３年度の地区の学校数は11校、令和13年度の試算では、11～８校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科、総合学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科及び総合学科については、学科やコース、系列の見直しを図るとともに、学科の専門性を維持・向上させる観点から、工業・商業の学科の拠点となる学校を整備します。

(3) 榛名高校※13及び松井田高校※14については、生徒の通学状況等に応じて、学科やコースの改編を含む再編整備を検討・実施します。同時に、榛名高校の「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の取組の充実や、松井田高校の地域への貢献活動の推進などを通して、地域と連携して、学校の活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程及び通信制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(5) 市立高等学校を設置する高崎市教育委員会と連携して学級数を調整するとともに、地区の高校教育の充実を図ります。

※13　榛名高校：１学年２学級規模の小規模校。平成22年度から「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」指定校として、地域との連携によるキャリア教育等を推進。
※14　松井田高校：１学年２学級規模の小規模校。平成15年度から、学校独自の取組「ハートフル松高」により、地域への貢献活動等を推進。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	3,970	3,571	3,304	3,078
増減(令和3年3月比)	―	-399	-666	-892

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
高崎	普通科	7	57学級 11校	53～51学級 11～10校	50～46学級 11～８校
高崎東	普通科	4			
高崎北	普通科（単位制）	6			
榛名	普通科	2			
高崎女子	普通科	7			
吉井	総合学科	4			
高崎工業	工業系学科	6			
高崎商業	商業系学科	7			
松井田	普通科	2			
安中総合学園	総合学科	5			
高崎市立 高崎経済大学附属	普通科	7			

【定時制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
高崎工業	工業技術科(夜間)	1	３学級 ３校	３学級 ３校	３学級 ３校
高崎商業	商業科(夜間)	1			
安中総合学園	普通科(夜間)	1			

【通信制課程】

高等学校名	学科等	学校数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
高崎	普通科	１校	１校	１校

【中等教育学校】

中等教育学校名	学科等	１学年学級数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
中央	普通科	４学級*1	４学級	４学級

*1　１学級30人

4　藤岡・多野・富岡・甘楽地区

■基本的な考え方

隣接する高崎市からの進学者が多く、一方で、地区の中学校卒業者が高崎市の高校へ進学する数も多いことから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、より一層の学校の特色化を図ります。

令和３年度の地区の学校数は７校、令和13年度の試算では、７～４校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

これまで、藤岡・多野地区と富岡・甘楽地区に分けて再編整備を進めてきましたが、生徒の通学状況等を踏まえ、必要に応じて、隣接する地区の状況も踏まえて検討します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコースの見直しを図り、地域のニーズ等に応じた特色化を推進するとともに、生徒の通学状況等に応じて、再編整備を検討・実施します。

(3) 万場高校※15及び下仁田高校※16については、教育の機会均等の観点に配慮しながら、生徒の通学状況等に応じて、ＩＣＴの活用や１学年１学級化など、教育の質の維持・向上と再編整備について、検討・実施します。同時に、万場高校においては、全国募集を行っている水産コースの取組を推進して広く発信することや、下仁田高校では、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール」の取組の充実など、地域と連携して、学校の活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程については、全県の配置バランスや隣接地区の状況も考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

※15　万場高校：特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模の小規模校。平成15年度から「奥多野地区連携型中高一貫教育」を実施。平成17年度から「水産コース」設置、全国募集実施。

※16　下仁田高校：特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模の小規模校。平成27年度から「ぐんまコミュニティー・ハイスクール」指定校として、地域に親しまれる高校づくりを推進。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	1,159	1,048	855	642
増減(令和3年3月比)	―	-111	-304	-517

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

<table>
<tr><th rowspan="2">高等学校名</th><th rowspan="2">学科等</th><th colspan="4">１学年学級数及び学校数</th></tr>
<tr><th colspan="2">令和３年度</th><th>令和８年度</th><th>令和13年度</th></tr>
<tr><td rowspan="2">藤岡中央</td><td>普通科</td><td>3</td><td rowspan="9">23学級
７校</td><td rowspan="9">21～19学級
７～５校</td><td rowspan="9">17～13学級
７～４校</td></tr>
<tr><td>理数科</td><td>1</td></tr>
<tr><td>藤岡北</td><td>農業系学科</td><td>3</td></tr>
<tr><td>藤岡工業</td><td>工業系学科</td><td>3</td></tr>
<tr><td>万場</td><td>普通科</td><td>2*1</td></tr>
<tr><td>富岡</td><td>普通科</td><td>6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">富岡実業</td><td>農業系学科</td><td>2</td></tr>
<tr><td>工業系学科</td><td>1</td></tr>
<tr><td>下仁田</td><td>普通科</td><td>2*1</td></tr>
</table>

*1　１学級32人

【定時制課程】

<table>
<tr><th rowspan="2">高等学校名</th><th rowspan="2">学科等</th><th colspan="4">１学年学級数及び学校数</th></tr>
<tr><th colspan="2">令和３年度</th><th>令和８年度</th><th>令和13年度</th></tr>
<tr><td>藤岡中央</td><td>普通科(夜間)</td><td>1</td><td rowspan="2">２学級
２校</td><td rowspan="2">２学級
２校</td><td rowspan="2">２学級
２校</td></tr>
<tr><td>富岡</td><td>普通科(夜間)</td><td>1</td></tr>
</table>

5　沼田・利根地区

■基本的な考え方

県の北部に位置し、地区の中学校卒業者の多くが地区内の学校に進学していることから、中学生の進路希望等を考慮し、地区の中核となる学校を維持し、地区内の多様な学びの保障を図ります。

令和３年度の地区の学校数は５校、令和13年度の試算では、５～２校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコース、系列の見直しを図ります。

(3) 尾瀬高校※17については、教育の機会均等の観点に配慮しながら、生徒の通学状況等に応じて、ＩＣＴの活用や１学年１学級化など、教育の質の維持・向上と再編整備について、検討・実施します。同時に、全国募集を行っている自然環境科の取組をより発展させ広く発信するなど、地域と連携して、学校の活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(5) 利根商業高校を設置している学校組合と連携して学級数を調整するとともに、地区の高校教育の充実を図ります。

※17　尾瀬高校：特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模の小規模校。平成８年度から「自然環境科」設置、地元の一般家庭がホストファミリーとなる「尾瀬ハ

ートフルホームシステム」により全国募集を実施。平成15年度から「尾瀬地区連携型中高一貫教育」を実施。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	641	553	484	400
増減(令和3年3月比)	―	-88	-157	-241

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

<table>
<tr><th rowspan="2">高等学校名</th><th rowspan="2">学科等</th><th colspan="4">1学年学級数及び学校数</th></tr>
<tr><th colspan="2">令和３年度</th><th>令和８年度</th><th>令和13年度</th></tr>
<tr><td>沼田</td><td>普通科</td><td>4</td><td rowspan="7">16学級
５校</td><td rowspan="7">14～12学級
５～３校</td><td rowspan="7">13～9学級
５～２校</td></tr>
<tr><td>沼田女子</td><td>普通科</td><td>3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">尾瀬</td><td>普通科</td><td>1*1</td></tr>
<tr><td>自然環境科</td><td>1*1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利根実業</td><td>農業系学科</td><td>2</td></tr>
<tr><td>工業系学科</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学校組合立
利根商業</td><td>普通科</td><td>1*2</td></tr>
<tr><td>商業系学科</td><td>3*2</td></tr>
</table>

*1　１学級32人

*2　県外出身者の別枠（12人）あり

【定時制課程】

高等学校名	学科等	1学年学級数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
沼田	普通科(夜間)	1学級	1学級	1学級

6　渋川・吾妻地区

■基本的な考え方

隣接する他地区からの進学者が多く、一方で、地区の中学校卒業者の他地区への進学も多いことから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、より一層の学校の特色化を図ります。

令和３年度の地区の学校数は７校、令和13年度の試算では、７～４校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

これまでは、渋川地区と吾妻地区に分けて再編整備を実施しましたが、生徒の通学状況等を踏まえ、必要に応じて、隣接する地区の状況も考慮します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科、総合学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科及び総合学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコース、系列の見直しを図ります。また、県で唯一の福祉科設置校については、福祉の学びの拠点としての整備を図ります。

(3) 長野原高校※18及び嬬恋高校※19については、教育の機会均等の観点に配慮しながら、生徒の通学状況等に応じて、ＩＣＴの活用や１学年１学級化など、教育の質の維持・向上と再編整備について、検討・実施します。同時に、長野原高校での「ぐんまコミュニティー・ハイスクール」の取組の発展を図ることや、嬬恋高校において全国募集を行っているスケート選手育成の取組を推進し、より広く発信することなど、地域と連携して、学校の

活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

※18 長野原高校：特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模の小規模校。平成20年度から「ぐんまコミュニティー・ハイスクール」指定校として、地域に親しまれる高校づくりを推進。

※19 嬬恋高校：特例的に定員の引下げを行っている１学年２学級規模の小規模校。平成15年度から「嬬恋地区連携型中高一貫教育」を実施。平成27年度から「スポーツ・健康コース（スケート実技選択）」において全国募集を開始。寮の設置は、地元自治体の支援による。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	1,304	1,265	1,152	933
増減(令和3年3月比)	―	-39	-152	-371

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
渋川	普通科	5	27学級 ７校	26～24学級 ７～６校	23～19学級 ７～４校
渋川女子	普通科	5			
渋川青翠	総合学科	4			
渋川工業	工業系学科	4			
吾妻中央	普通科	2			
	農業系学科	2			
	福祉科	1			
長野原	普通科	2*1			
嬬恋	普通科	2*1			

*1　１学年32人

【定時制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
渋川工業	工業技術科(夜間)	1学級	1学級	1学級

7　太田・館林・邑楽地区

■基本的な考え方

県の東部に位置し、地区の中学校卒業者が地区内へ進学する割合が高い一方で、隣接する他県への進学者も多いことから、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、より一層の学校の特色化を図ります。

令和３年度の地区の学校数は12校、令和13年度の試算では、12～10校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

また、生徒の通学状況等に応じて、地区内を、太田地区と館林地区、邑楽地区に分けた検討も行います。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科、総合学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科及び総合学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコース、系列の見直しを図ります。

(3) 板倉高校※20については、生徒の通学状況等に応じて、学科やコースの改編を含む再編整備を検討・実施します。同時に、「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の取組の充実など、地域と連携して、学校の活性化と魅力化を図ります。

(4) 定時制課程及び通信制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(5) 市立高等学校を設置する太田市教育委員会と連携して学級数を調整する

とともに、地区の高校教育の充実を図ります。

※20　板倉高校：１学年２学級規模の小規模校。平成20年度から「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」指定校として、地域との連携によるキャリア教育等を推進。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	3,698	3,738	3,221	2,696
増減(令和3年3月比)	―	40	-477	-1,002

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
太田	普通科	7	59学級 12校	59～57学級 12校	52～48学級 12～10校
太田東	普通科（単位制）	6			
太田女子	普通科	6			
新田暁	総合学科	4			
太田工業	工業系学科	4			
館林	普通科	5			
館林女子	普通科	5			
板倉	普通科	2			
館林商工	工業系学科 商業系学科	2 2			
西邑楽	普通科 スポーツ科 芸術科	3 1 1			
大泉	普通科 農業系学科	1 3			
太田市立太田	普通科 商業系学科	3 4			

【定時制課程】

高等学校名	学科等	１学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
太田フレックス （フレックススクール）	普通科Ⅰ(午前)部 普通科Ⅱ(午後)部 普通科Ⅲ(夜間)部	2 2 2	７学級 ２校	７学級 ２校	７学級 ２校
館林	普通科(夜間)	1			

【通信制課程】

高等学校名	学科等	学校数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
太田フレックス	普通科	１校	１校	１校

8　桐生・みどり地区

■基本的な考え方

隣接する他地区からの進学者が多いことから、隣接する地区の状況も考慮しながら検討します。また、令和３年度に新高校２校※21が開校することから、再編整備の状況を踏まえ、中学生の進路希望等を考慮しながら、地区の中核となる学校を維持するとともに、より一層の学校の特色化を図ります。

令和３年度の地区の学校数は５校、令和13年度の試算では、５～４校となることを踏まえて、地区の学校の在り方を検討し、再編整備を推進します。

検討に当たっては、地域や学校関係者等との意見交換の場を設定するなどして、地域や県民の理解を得ながら取組を進めます。

※21　新高校２校：桐生高校と桐生女子高校の統合による（新）桐生高校及び、桐生南高校と桐生西高校の統合による桐生清桜高校。

■取組の方向

(1) 普通科系学科を基盤とする一定規模の中核となる学校の維持を図ります。普通科、専門学科の構成及び学級数については、中学生の進路希望等を考慮して設定します。

(2) 職業系専門学科については、地域の産業を担う人材育成の観点を踏まえ、学科やコース、系列の見直しを図ります。

(3) 定時制課程及び通信制課程については、全県の配置バランスや生徒の通学状況等を考慮しながら、生徒の多様な学びのニーズに対応できるよう、再編整備を検討・実施します。

(4) 市立高等学校を設置する桐生市教育委員会と連携して学級数を調整するとともに、地区の高校教育の充実を図ります。

■中学校卒業見込者数

卒業年月	令和3年3月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月
中学校卒業見込者数	1,275	1,135	1,000	795
増減(令和3年3月比)	—	-140	-275	-480

■学級数及び学校数の見込み

【全日制課程】

高等学校名	学科等	1学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
桐　　生	普通科	6	27学級 ５校	24～22学級 ５～４校	23～19学級 ５～４校
	理数科	2			
桐生清桜	普通科（単位制）	6			
桐生工業	工業系学科	4			
大間々	普通科（単位制）	3			
桐生市立商業	商業科	6			

【定時制課程】

高等学校名	学科等	1学年学級数及び学校数			
		令和３年度		令和８年度	令和13年度
桐生工業	工業技術科(夜間)	1	２学級 ２校	２学級 ２校	２学級 ２校
桐生市立商業	商業科(夜間)	1			

【通信制課程】

高等学校名	学科等	学校数		
		令和３年度	令和８年度	令和13年度
桐　　生	普通科	１校	１校	１校

参考資料

(ページ)

1　中学校卒業者数等の推移 ---------- 34

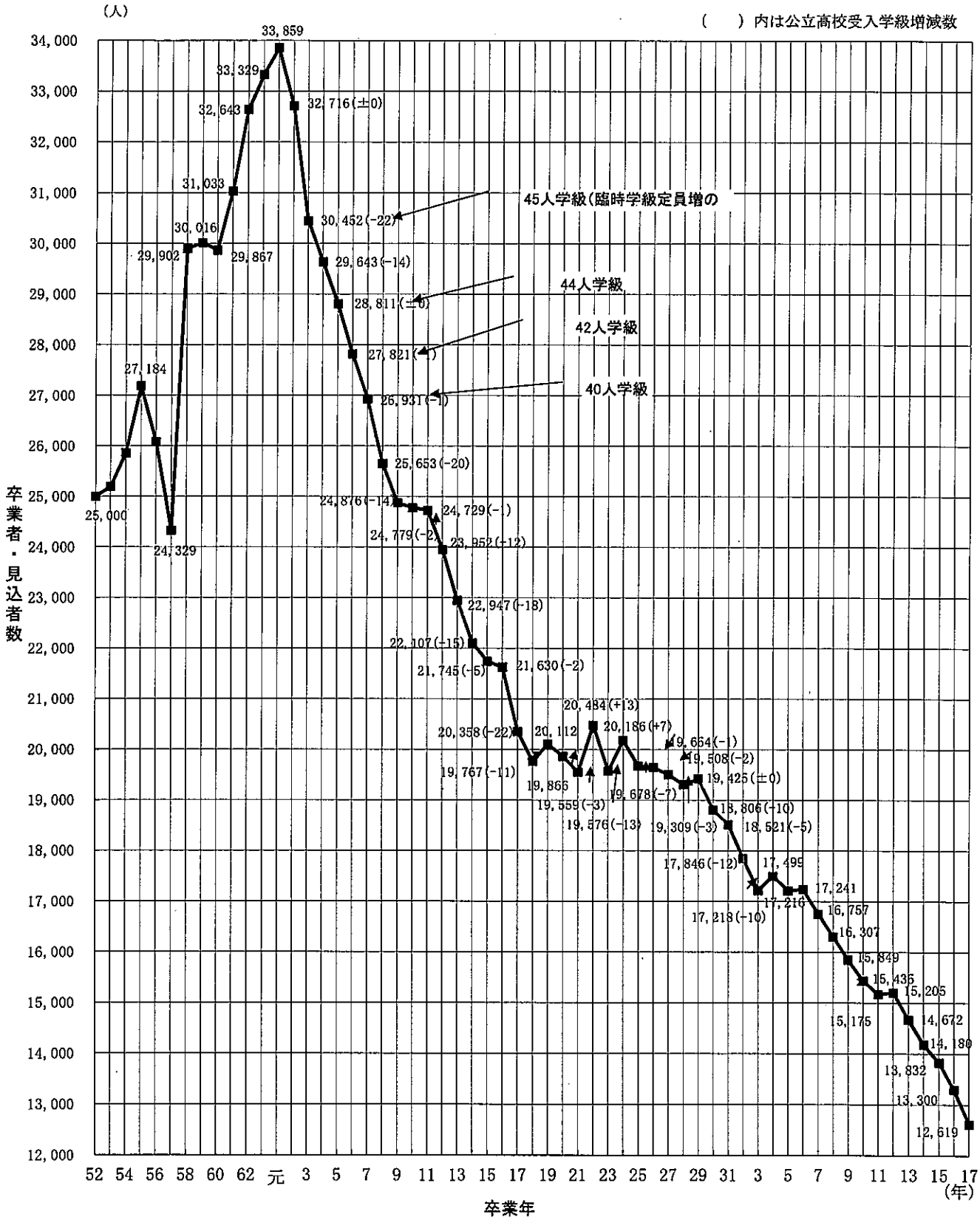
2　これまでの高校教育改革の年度別実施状況 ---------- 35

3　公立高等学校等の配置状況 ---------- 38

4　全日制公立高校等の学校規模 ---------- 39

5　公立高等学校等の種類と内容 ---------- 40

中学校卒業者数等の推移



備考
・中等教育学校前期課程修了者数を含む（平成19年度～）。
・学校基本調査及び義務教育就学前幼児数調査による（令和２年５月１日現在）。

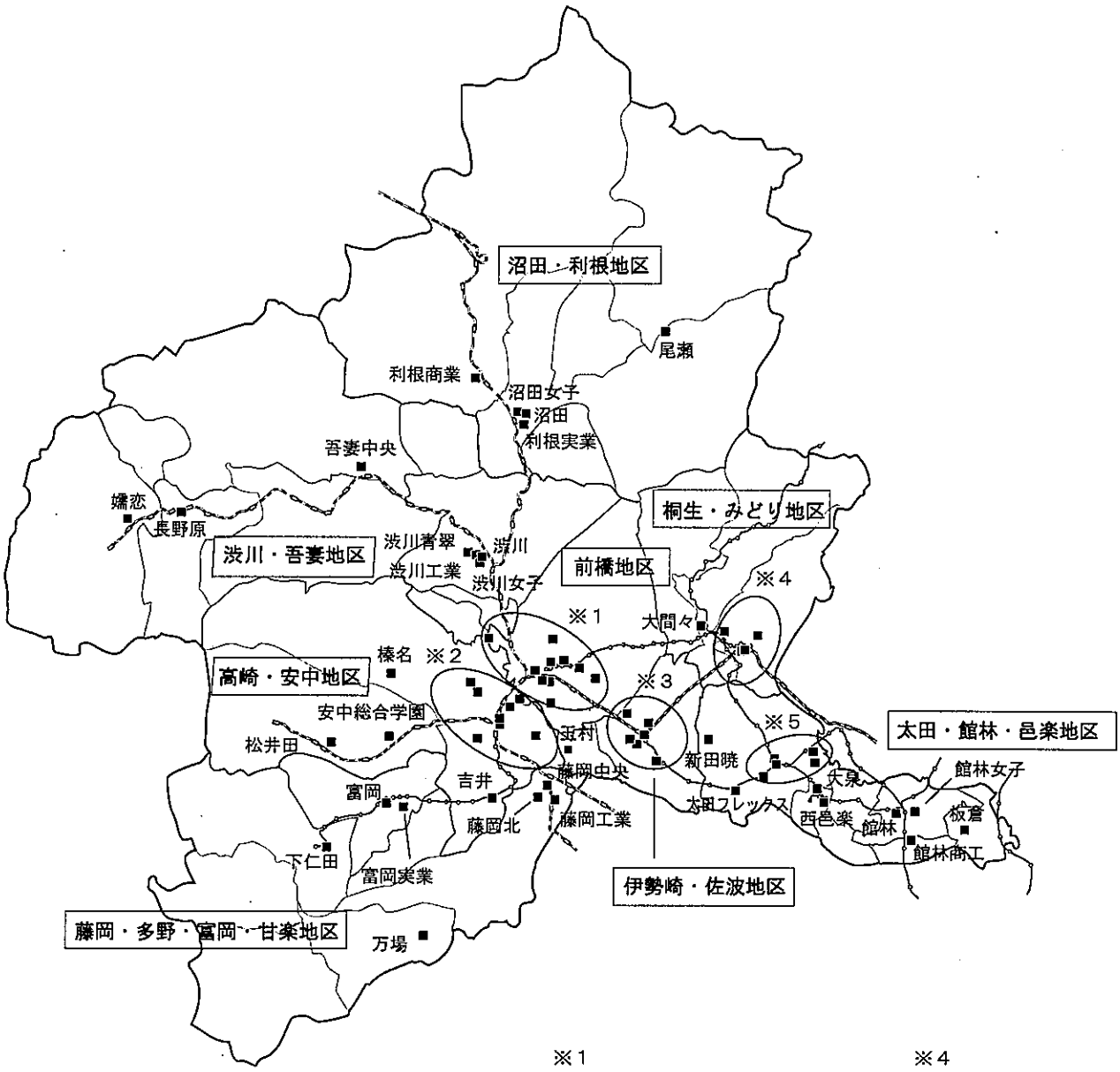
これまでの高校教育改革の年度別実施状況

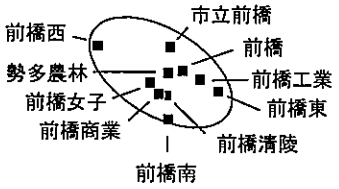
年　度	学　校　名	改　　革　　の　　内　　容
平成 ８年度	尾　瀬　高　校	自然環境科を設置、全国募集を開始。尾瀬ﾊｰﾄﾌﾙﾎｰﾑ・ｼｽﾃﾑ、総合選択制を導入。
	新　田　暁　高　校	総合学科に改編。７系列１２０の選択科目を開設。
９年度	前　橋　西　高　校	英語科を国際科とする。
	伊　勢　崎　東　高　校	英語科を国際科とする。
	沼　田　女　子　高　校	普通科１学級を理数コースとする。
	万　場　高　校	福祉サービスコース、アドベンチャーコースなどを設置。
	嬬　恋　高　校	スポーツ健康コース、流通ビジネスコースを設置。
	市　立　前　橋　高　校	普通科男女共学とする。校舎移転。
	利　根　実　業　高　校	森林科学科を設置し、コース制を導入。
	前　橋　東　商　業　高　校	情報処理科１学級を国際マルチメディア科とする。
10年度	桐　生　高　校	普通科２学級を理数科とし、男女共学とする。
	長　野　原　高　校	普通科、建築科にコース制を導入。
	大　間　々　高　校	在校生を含めて一斉に単位制に移行。（全日制単位制）
	渋　川　青　翠　高　校	総合学科に改編。７系列１０３の選択科目を開設。
11年度	西　邑　楽　高　校	普通科２学級をスポーツ科、芸術科に改編。総合選択制を導入。
	吾　妻　高　校	普通科１学級を福祉科に改編。
12年度	勢　多　農　林　高　校	生物生産科、食品文化科、動物科学科を設置。
	高　崎　商　業　高　校	流通、情報、国際の各ビジネス科を設置。くくり募集を導入。
	伊　勢　崎　興　陽　高　校	生物生産科、食品文化科を設置。くくり募集を導入。
	伊　勢　崎　商　業　高　校	会計科を新設。くくり募集を導入。
	利　根　実　業　高　校	工業技術科、環境建設科、生物生産科を設置。
	藤　岡　北　高　校	生物生産科、環境土木科、ﾋｭｰﾏﾝ･ｻｰﾋﾞｽ科を設置。くくり募集を導入。
	藤　岡　工　業　高　校	各科でコース制を導入。くくり募集を導入。
	中　之　条　高　校	生物生産科を設置。普通科を男女募集。
	大　泉　高　校	生物生産科、バイオテクノロジー科を設置。普通科を男女募集。
	吉　井　高　校	総合学科に改編。６系列１０６の選択科目を開設。
13年度	富　岡　実　業　高　校	生物生産科、園芸科学科、食品科学科を設置。
	安　中　実　業　高　校	生物生産科、食品環境科、工業技術科を設置。
14年度	前　橋　工　業　高　校	材料技術科を材料設備科に改編。
	尾　瀬　高　校	経営情報科を廃止し、普通科にコースとして設置。
	下　仁　田　高　校	商業科を廃止し、普通科に３つのコースを設置。
	館　林　商　工　高　校	電子機械科と電気科を生産システム科に改編。くくり募集を導入。
	太　田　市　立　商　業	情報処理科を情報科に改編。

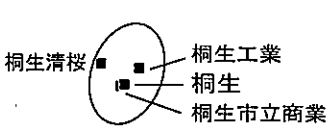
15年度	前橋東高校	総合学科に改編。上級学校での学習につながる６つの系列を設置。
	高崎北高校	上級学校への進学を中心とした普通科の全日制単位制高校に改編。
	万場高校	連携型中高一貫教育校（万場中・上野中・中里中と連携）
	嬬恋高校	連携型中高一貫教育校（嬬恋東中・嬬恋西中と連携）
	尾瀬高校	連携型中高一貫教育校（利根中・片品中と連携）
	太田工業高校	機械科を機械系、電気科と情報技術科を電気系としてくくり募集。コース制を導入。工業化学科の募集停止。
	前橋東商業高校	商業科を総合ビジネス科とし、国際マルチメディア科とくくり募集。情報処理科は国際マルチメディア科に統一。
	勢多農林高校	生活科学科をグリーンライフ科に改編し、フラワーデザインコースとグリーンライフコースを開設。
16年度	中央中等教育学校	中央高校の校地に１学級３０人４クラスで開校。６年間の計画的・継続的な学習を通して、国際コミュニケーション能力を養成。
	前橋工業高校	電子機械科を設置し、材料・設備科の募集を停止。
17年度	新田暁高校	総合学科７系列を、６系列に改編。
	太田フレックス高校	太田西女子高校を募集停止。定時制、通信制課程を設置。
	桐生工業高校	建築科、土木科を建設科に改編。
	伊勢崎高校	伊勢崎東高校と境高校を統合。文理総合科６学級、グローバルコミュニケーション科２学級、男女共学。
	伊勢崎清明高校	伊勢崎女子高校を全日制単位制（男女６学級）に改編。
	伊勢崎興陽高校	生物生産科、食品文化科、都市工学科を総合学科に改編。
	利根実業高校	生物生産科、森林科学科、生活科学科、工業技術科、環境建設科を生産生物科とグリーンライフ科、機械システム科と環境技術科のくくり募集。
	渋川工業高校	電子機械科を機械科に、電子・電気科を電気科に改編。
	長野原高校	建築科（男女１学級）を普通科（男女１学級）に改編。
	藤岡中央高校	藤岡高校と藤岡女子高校を統合。文理総合科４学級、数理科学科２学級、男女共学。
	万場高校	アドベンチャーコースを水産コースに改編。全国募集を開始。
18年度	安中総合学園高校	安中高校と安中実業高校を統合。総合学科６学級、男女共学。
	中之条高校	農業土木科を環境工学科に改編。
19年度	前橋商業高校	前橋商業高校と前橋東商業高校を統合。
	勢多農林高校	生物生産科を植物科学科・バイオテクノロジー科に改編。
	利根商業高校	商業科と情報処理科を地域経済科・国際経済科・情報経済科に改編し、くくり募集。
	吉井高校	総合学科６系列を４系列に改編。
20年度	太田東高校	全日制単位制（男女６学級）に改編。男女別募集を廃止。
21年度	市立四ツ葉学園中等教育学校	市立伊勢崎高校を改編。前期課程１２０人（男女各６０人）
22年度	市立高崎経済大学附属高等学校	普通系、芸術系、体育系を普通系、芸術系に改編。（→平成25年度に普通コース、芸術コースに名称変更）
23年度	伊勢崎高校	文理総合学科、グローバルコミュニケーション科のくくり募集。

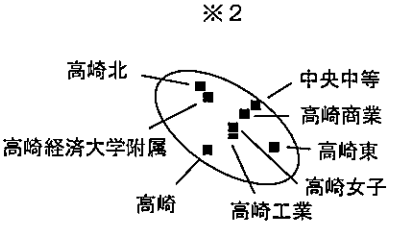
年　度	学　校　名	改　　革　　の　　内　　容
25年度	沼田女子高校	理数コース、英語コースを英数コースに改編。
	藤岡中央高校	文理総合学科、数理科学科のくくり募集。
	市立伊勢崎高校	平成25年度末で閉校。
	利根商業高校	男女一括募集。
26年度	前橋商業高校	ビジネス総合科の男女別募集を廃止。男女一括募集。
27年度	伊勢崎高校	文理総合科６学級、グローバルコミュニケーション科２学級を普通科７学級、グローバルコミュニケーション科１学級に改編。
	藤岡中央高校	文理総合科４学級、数理科学科２学級を普通科５学級、理数科１学級に改編。
	富岡実業高校	園芸科学科、食品科学科を地域産業科に改編。生物生産科、地域産業科、電子機械科のくくり募集。
	桐生女子高校	普通科、英語科のくくり募集。
	前橋西高校	普通科の男女別募集を廃止。男女一括募集。
	西邑楽高校	普通科の男女別募集を廃止。男女一括募集。
	嬬恋高校	スポーツ・健康コース（スケート実技選択）で全国募集を開始。
	市立太田高校	太田市立商業高校から太田市立太田高校に校名変更。普通科設置。
28年度	大泉高校	バイオテクノロジー科をグリーンサイエンス科に改編。
	館林女子高校	英語コースを募集停止し、普通科のみの募集とする。
	桐生市立商業高校	商業科、情報処理科のくくり募集。
29年度	高崎工業高校	定時制課程において、機械･電気科、建設科を工業技術科に改編。
	万場高校	平成28年度入学生から、情報ビジネスコースを廃止し、教養コース、福祉サービスコース、水産コースに改編。
	利根商業高校	普通科を設置。
30年度	（新）富岡高校	富岡高校と富岡東高校を統合。普通科６学級、男女共学。
	吾妻中央高校	中之条高校と吾妻高校を統合。普通科２学級、生物生産科１学級、環境工学科１学級、福祉科１学級、男女共学。
	桐生女子高校	普通科、英語科を普通科に改編。
	利根商業高校	国際経済科を募集停止。他県枠募集を開始。
31年度	桐生工業高校	電気科、染織デザイン科を創造技術科（電気コース・染織デザインコース）に改編。
	前橋西高校	普通科、国際科のくくり募集。
令和２年度	前橋商業高校	ビジネス総合科とシステム情報科を商業科に改編。
	前橋南高校	男女一括募集。
３年度（予定）	（新）桐生高校	桐生高校と桐生女子高校を統合。普通科６学級、理数科２学級、男女共学。
	桐生清桜高校	桐生南高校と桐生西高校を統合。普通科６学級。
	勢多農林高校	バイオテクノロジー科、グリーンライフ科を植物デザイン科に改編。食品文化科を食品科学科に改編。
	太田工業高校	電気科、情報技術科を電気情報科に改編。
	利根実業高校	機械システム科、環境技術科を創生工学科に改編。
	高崎商業高校	男女一括募集。

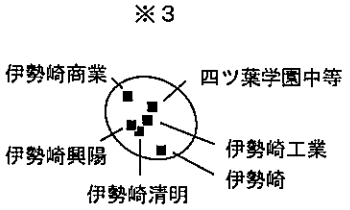
公立高等学校等の配置状況

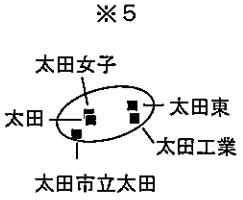












全日制公立高校等の学校規模

（令和３年度第１学年学級数）

第１学年学級数		２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級
普通科高校	普通科のみを設置	榛名 松井田 下仁田 長野原 玉村 板倉		高東	前南 館林 渋川 渋女	清桜 富岡 前市高 太女	前橋 前女 高崎 高女 太田	
	学科・コースを設置		沼女	前西 沼田 藤岡中央	館女 西邑楽		伊勢崎 高経附	桐生
	連携型中高一貫	万場 嬬恋 尾瀬						
	単位制		大間々		清明	高北 太東		
専門学科高校	農業科		藤北		勢農			
	工業科		藤工	桐工 太工 渋工	伊工	前工 高工		
	商業科					桐市商 伊商	前商 高商	
	複数の学科を設置		利根実 富実	館商工				
普通科と専門学科を置く高校				大泉 利根商	吾妻中央		太市高	
総合学科高校				吉井 新田暁 青翠	前橋東 興陽 安中総合			
フレックススクール				清陵		太フレ		
中等教育学校				中央中等 四ツ葉				
学校数		9	6	16	13	11	10	1
学級数		18	18	64	65	66	70	8

計　６６　校
３０９学級

※　「高校教育改革基本方針」に基づく再編整備対象校（前期）（中期）

※　「高校教育改革推進計画」に基づく再編整備対象校

※　フレックススクールは夜間部を含む。

※　中央中等中等教育学校、四ツ葉学園中等教育学校は、１学級定員３０人。

※　利根商業高校は、他県枠の募集定員を除く。

公立高等学校等の種類と内容

令和３年度入学者

（*斜体*：単位制、*印：再掲）

- 高等学校
  - 全日制課程
    - 普通科
      - [中毛地域]
        前橋　前橋南　前橋西　前橋女子　前橋市立前橋
        伊勢崎　伊勢崎清明
        玉村（ぐんまチャレンジ・ハイスクール）
      - [西毛地域]
        高崎　高崎東　*高崎北*　高崎女子
        榛名（ぐんまチャレンジ・ハイスクール）
        高崎市立高崎経済大学附属　松井田
        藤岡中央　富岡　万場
        下仁田（ぐんまコミュニティー・ハイスクール）
      - [北毛地域]
        沼田　尾瀬　沼田女子　利根商
        渋川　渋川女子　吾妻中央
        長野原（ぐんまコミュニティー・ハイスクール）　嬬恋
      - [東毛地域]
        太田　*太田東*　太田女子　太田市立太田
        館林　館林女子　西邑楽
        大泉　板倉（ぐんまチャレンジ・ハイスクール）
        桐生　*桐生清桜*　*大間々*
      - コース制
        - *桐生清桜**（アドバンスト探究）
        - 沼田*（数理科学）　沼田女子*（英数）
        - 万場*（教養、福祉サービス、水産）※２年次～
        - 嬬恋*（スポーツ・健康、流通ビジネス）
        - 高崎市立高崎経済大学附属*（普通、芸術（音楽系・美術系））
    - 専門学科
      - 理　数
        - 桐生*　藤岡中央*
      - 自然環境
        - 尾瀬*
      - 国　際
        - 前橋西*
      - ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
        - 伊勢崎*
      - 体　育
        - 西邑楽*（スポーツ）
      - 芸　術
        - 西邑楽*（音楽コース、美術コース）
      - 農　業
        - 勢多農林（植物科学、植物デザイン、動物科学、緑地土木、食品科学）
        - 利根実業（生物生産、グリーンライフ）
        - 藤岡北（生物生産、環境土木、ヒューマン・サービス）
        - 富岡実業（生物生産、地域産業）
        - 吾妻中央*（生物生産、環境工学）
        - 大泉*（生物生産、グリーンサイエンス、食品科学）

- 高等学校
  - 全日制課程
    - 専門学科
      - 工業
        - 前橋工業（機械、電子機械、電気、電子、建築、土木）
        - 高崎工業（機械、電気、情報技術、建築、土木、工業化学）
        - 桐生工業（機械、建設、創造技術）
        - 伊勢崎工業（機械、電子機械、電気、工業化学）
        - 太田工業（機械、電子機械、電気情報）
        - 利根実業*（創生工学）
        - 渋川工業（機械、自動車、電気、情報システム）
        - 藤岡工業（機械、電子機械、電気）
        - 富岡実業*（電子機械）
        - 館林商工（生産システム、建築）
      - 商業
        - 前橋商業（商業）
        - 高崎商業（流通ビジネス、情報ビジネス、国際ビジネス）
        - 伊勢崎商業（商業、会計、情報処理）
        - 館林商工*（総合ビジネス、情報ビジネス）
        - 桐生市立商業（商業、情報処理）
        - 太田市立太田*（商業）
        - 利根商業*（地域経済、情報経済）
      - 福祉
        - 吾妻中央*
    - 総合学科
      - *前橋東　伊勢崎興陽　吉井　安中総合学園*
      - *渋川青翠　新田暁*
  - 定時制課程
    - 普通科（昼夜間）
      - [フレックススクール]
      - *前橋清陵*（昼・夜）　*太田フレックス*（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部）
    - 普通科（夜間）
      - 沼田*　館林*　藤岡中央*　富岡*　安中総合学園*
    - 専門学科（夜間）
      - 工業
        - 前橋工業*（機械、建築）　高崎工業*　桐生工業*
        - 伊勢崎工業*　渋川工業*
      - 商業
        - 高崎商業*　桐生市立商業*
  - 通信制課程
    - 普通科
      - *前橋清陵*　*高崎*　*桐生*　*太田フレックス**
    - 専門学科
      - 衛生看護
        - *前橋清陵**　※准看護学校の在学者及び卒業者

〔参考〕

- 中高一貫教育校
  - 中等教育学校
    - 中央中等教育学校
    - 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
  - 併設型中高一貫教育校
    - 太田市立太田中学校　太田市立太田*
  - 連携型中高一貫教育校
    - 連携型中学校※　尾瀬*　万場*　嬬恋*

※尾瀬：利根中学校・片品中学校、万場：中里中学校・上野中学校、嬬恋：嬬恋中学校